

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0792830036		
法人名	株式会社エコ		
事業所名	グループホームほうすい2		
所在地	福島県西白河郡矢吹町北町85番地		
自己評価作成日	令和4年9月30日	評価結果市町村受理日	令和5年1月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和4年11月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

建物の平屋の構造を生かし利用者様が1, 2ユニット自由に行き来でき他利用者様との交流を深めております。毎月の行事等も合同で行い楽しまれております。職員も1, 2ユニット全職員で朝、夕の申し送りを行い理念を唱和し両ユニット利用者様の状態を把握し支援しております。隣接する保育園、園児と交流を楽しみにされています。現在コロナにより面会制限をしておりますがリモート面会を行いご家族様と利用者様が顔を見て安心されお話をし喜んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り、理念(法人、ホーム)ホーム目標の唱和を行っており、管理者と職員の隔たりをなくし、皆で良いケアの実践が出来るよう心掛けています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により、地域行事等には参加出来ませんが、区長さんや保育施設の園長さんと連絡を取り合っています。また、消防訓練には消防署員を派遣して頂き、年2回の総合訓練を行っております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社内研修、外部研修に参加した事を、地域の方やご家族様にも知って頂きたく、運営推進会議資料で報告しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	感染症対策の為、集まったの運営推進会議は出来ておりませんが、事業所側で資料を作成し送付しています。運営推進会議代表者様へ、意見・要望・助言等提案書を送付して、返送いただいた内容を反映させて頂いております。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	矢吹町社会福祉協議会、地域包括支援センターとの情報交換会に参加させて頂き、担当者との連携を密にとりホームの空き状況や、入居相談等を行い、協力関係を築いております。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等適正化検討委員会を3か月に一度開催しており、身体拘束についての意識を職員全員で再確認、共有できるようにしています。帰宅願望が強い方がいても、鍵の施錠はせず、入居者様に寄り添ったケアをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止研修は年2回開催しており、再認識できるよう伝達している。職員同士で注意が出来る関係性が築けています。また、マンネリ化しないよう、意識の再確認をしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修で学ぶ機会があるため、職員へ参加の案内をしている。また、入居予約時、入居後でも、成年後見人制度についての案内、説明を必要に応じて行っております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様の質問、疑問、不安等が解消、安心して頂けるまで、時間をかけてゆっくりと話し合いをしています。入居後もいつでも相談受付しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様が来所された際には、用事だけで済まらず、こちらから入居者様の状態等の説明を積極的に行っております。電話対応時も同じですが、困りごとや不安な事が無いかが、確認しており、相談や要望があれば、いつでもご連絡していただくよう、気配り、目配りに心掛けています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議等で、職員一人ひとりが平等に発言できる時間を設けています。会話の中で、困っていることなど、他職員と相談し、解決、反映できるよう努めています。また、管理者に相談したい事があれば、いつでも連絡するよう声をかけています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の能力に見合った給与、処遇改善の評価、反映を行っております。希望休や家庭の事情を考慮したシフト作成を行っております。しっかり休息することで、向上心と危機管理能力の継続に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修が年間を通して開催されており、職員のスキルアップ、レベルに似合った研修に参加できるよう、機会を設けています。自主参加も可能な為、積極的に参加できるような環境整備を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しているため、外部研修等に参加させて頂いております。その中で、他事業者との情報交換と共有を図っております。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご家族様や入居者様の不安に耳を傾け、少しでも軽減できるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様や入居者様に意向の確認を行い、意向に沿ったケアを出来るよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様と入居者様に今までの生活歴等をお聞きし、必要なサービスの提案、提供が出来るよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と職員との関係性を築いていくため、日頃からできることは共に行うことで、関係性の構築に努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様についての問題や疑問があった際には、ご家族様に相談しながら今後についての話し合いをしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コミュニケーションを図る際、今まで生活してきた出来事や思い出の話をし、懐かしく思っていたいただき、馴染みの人や場所と関われるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様一人ひとりの性格や状況に応じて、席の配置や一緒にくつろげる様な空間を作り、一人ひとりが快適に楽しく過ごしていただけるよう努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後、いつでも相談していただけるようご家族様に寄り添いの言葉かけをしております。必要に応じた支援をさせて頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向を確認し、ご本人様の希望に添えるよう努めています。言葉で確認する事が難しい場合は、ご本人様の状況とご家族様の意向を確認しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前など、事前に生活歴や生活してきた環境を聞き取り、支援出来るようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	居室内で過ごされている時も、定期的な声かけや訪室を行っており、状態の観察や行動の確認を行い記録して、有する力を発揮出来るように、職員で情報共有するよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様と入居者様の意向を事前に確認し、ケース会議等で職員の意見を交えながら、介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ちょっとした変化や気づきがあった際には記録情報共有し会議等で話し合いをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様ご家族様のご意向の確認を行い、入居者様に必要なサービス提供が出来るよう提携業者や役所、地域関係者の協力を得ながら、様々なサービスを受けられるよう支援しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為、ボランティアの受け入れが出来ない状況ですが、区長さんや近隣の保育園の園児達が、差し入れをしてくれたり、事業所前を園児の散歩コースにもしていただいで、窓越しでも顔が見え、入居者様には大変喜ばれております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療による月2回の往診があり、ご家族様や入居者様の意向など主治医へ伝える事で、安心・安全な生活ができるよう支援しております。また、主治医とは密に連携をとっており、細かなやり取り、報連相を徹底しております。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職と密に連携をとり、気づきや疑問点などを相談し、助言、アドバイスを元に入居者様の健康状態の維持ができるよう努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の手続きは、ご家族様のご対応をお願いしておりますが、やむを得ない場合は職員での対応をしています。また、病院との連携をとり、早期退院や入院調整など、連絡を取り合って情報共有に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、ご家族様に重度化や終末期についての意向の確認を行っておりますが、年数が経過していたり、直近での再確認をすることで、施設で出来る事、緩和ケアの方法などの提供がスムーズに行えるように努めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月に一度、消防訓練を行っており消火訓練だけではなく、救命講習も受けております。何事にも速やかに対応出来るよう、職員全員が講習を受けられるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害発生時は、近隣関係者様のご協力をいただき、避難場所の確保、避難誘導のご協力をお願いしております。また、近隣での災害発生時は、当事業所を一時避難場所として利用できるよう、お声がけしております。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いは特に気を付けている。人生の大先輩なので、適当な言葉では会話せず、入居者様の言葉の意味を理解し、寄り添いながら対応しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様からの申し出があった際は、なるべく思いを受け入れています。職員と共同作業することで、ご本人のやりがいや生きがいに繋がるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの過ごし方、暮らし方を守りつつ、空き時間には、お手伝いを積極的に行って頂ける環境を作り、無理ないようご本人のペースに合わせて支援させて頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時は、くしで髪をとかしたり、毎朝温タオルで顔を拭いたりと整容を行っている。更衣時は好きな服を選んで頂き、身だしなみや好みの服が着れるよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食事の前には、献立内容の説明を行い、食事のを楽しめるようにしています。コロナ禍で一緒に食事はできませんが、職員が入居者様の近くに座り楽しい時間になるようにしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取が難しい場合、ご本人の好みに合わせた食事、水分を提供しています。それでも栄養状態が不安定な場合は、主治医やご家族様に相談し、栄養補助食品の提供など支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがいとブラッシングの声かけを行っております。介助が必要な場合は、一部介助と声かけをします。義歯装着の方は、夕食後に預かり、ブラッシングと洗浄剤を使用しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的な排泄介助、トイレ誘導の時間を設け、なるべく自然排泄が出来るよう促している。オムツを使用している方でも、ご本人の希望やいつもと違う様子が見られた際には、排泄介助を定期的に行っております。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取不足が多く、ご本人のお好きな飲み物を提供することで、水分摂取と便秘予防を促しています。歩行出来る方は、歩行運動。車椅子の方は自操していただき、無理のない範囲で体を動かしていただいております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の希望がある際は、できるだけ対応させていただきます。声掛けし入浴の拒否があった場合は、無理せずに日を改めたりしています。入浴時は一対一での会話出来るため、楽しい時間になるよう心がけています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息は一人ひとり異なるため、個人に合わせたタイミングで休息していただいております。居室内やホール内の温度管理を徹底しており、快適な空間作りの支援をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用前に、職員同士でのダブルチェックを実施。日付と名前確認を行い、誤薬に注意している。状態の変化、症状等の現れがあった際には、主治医に相談し内服薬の確認、調整を行っていただいております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の状態に合わせ、出来る事は継続していただけるよう支援し、出来ないことも職員と一緒に行うことで、達成感を得られるよう努めています。感謝の言葉は必ず伝えるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、お店などに行くことができませんが、敷地内の日が当たる場所で休憩したり、外の空気を吸い、気分転換ができるよう支援しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍の為、買い物は職員代行で対応させていただいております。日用品購入代金は施設で管理しているため、ご家族様へ定期的な連絡を行っております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様のご希望があった際には、職員が電話をかけて、お繋ぎしています。掛かってきた場合は直接入居者様へお渡しして、会話を楽しめるようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内や共用空間は毎日清掃を行っており、清潔を保つよう努めています。季節によって、掲示物を変更し、季節を感じていただけるよう工夫をしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にはソファが設置されており、いつでも、だれでも使用でき、仲の良い方同士、独りになりたいときなど、思い思い快適に過ごしていただけるよう、明るさや室温管理を行っております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	入居者様やご家族様の希望、要望に応じて、馴染みのある家具や掲示物を居室内に飾り、今までと変わらない生活環境を再現することで、安心した暮らしが出来るよう努めています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内の環境整備を行い、車椅子でも安全に自操できるよう、ベッドや家具の配置を変更しています。		